



立命館大学スポーツ健康科学会

2022 年度 総会 議案

■日時： ※manaba+R にて決議致します。

■会場：

■議案

1. 開会
2. 【第1号議案】役員の選出..... 1
3. 【第2号議案】2021 年度事業報告ならびに 2021 年度決算報告について..... 2
4. 【第3号議案】2022 年度事業計画ならびに 2022 年度予算案について..... 4
5. スポーツ健康科学会『藍星賞』表彰式..... 6
6. 閉会

以上

第 1 号議案

2022 年 6 月 22 日

立命館大学スポーツ健康科学会総会

役員の選出について（案）

立命館大学スポーツ健康科学会会則に基づき、以下の役員を選出する。

	教員会員	院生会員	学生会員
会長	長積 仁		
副会長	家光 素行		
常任委員	橋本 健志 塩澤 成弘	梶川 颯太 (M1)	津崎 邦岳 (4 回生) 松島 文丈 (4 回生) 宮堺 康生 (4 回生)
幹事	長野 明紀		
監査委員	真田 樹義	門前 朋実 (M1)	大野 雅嗣 (4 回生)

以上

第 2 号議案

2022.6.22

立命館大学スポーツ健康科学会総会

2021 年度事業報告

- (1) スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科 10 周年記念式典を 2021 年 7 月に開催いたしました。「学部・研究科開設 10 周年記念事業」として、立命館大学スポーツ健康科学部・研究科 10 周年サイトを開設、また、10 周年記念誌を発行、オリジナル記念酒の販売、サコッシュの作成などを行いました。
- (2) 多様な学びへの補助に関しては、学会発表やインターンシップなど学会の知の向上に関わる参加費補助、並びに英語力向上(G A T プログラム)の為、Step-up コース : TOEFL 関連講座の受講料・受験料の補助を行いました。
- (3) スポーツ健康科学部の年間の学習活動とも関わる内容も含め、学会誌「立命館スポーツ健康科学」第 12 巻を発刊し、新任教員特集を掲載しました。そして、大学院スポーツ健康科学研究科博士課程前期課程の修士論文の概要、ホームページにアップした記事をまとめた、スポーツ健康科学部・研究科の 1 年などを掲載しました。
- (4) 卒業論文概要をまとめた「卒業論文集 第 9 号」を発行しました。
- (5) 卒業論文優秀者 19 名に対してメダル、及び図書カードを贈呈しました。
- (6) 「スポーツ健康科学」における教育、研究活動を発展させ、この分野で活躍する人財育成の支援を目的として第 4 回藍星賞の候補者募集を行い、4 名の受賞者を発表・表彰しました。
- (7) スポーツ健康科学部は 9 期生が卒業、ならびに博士課程前期課程 11 期生の修了、ならびに同後期課程 8 期生の修了を踏まえ、学会学生委員にて先生方からの卒業御祝いメッセージ動画を作成し、卒業式にて披露、ユーチューブにアップロードしました。

以上

第2号議案

2021年度決算報告(2021.04.01～2022.03.31)

1. 収入の部

予算			決算		
会費収入	教員会員	420,000	会費収入	教員会員	420,000
	大学院生会員	888,800		大学院生会員	8,032,000
	学部生会員	7,984,000		学部生会員	
前年度繰越金		10,156,666	前年度繰越金		10,156,666
卒業・修了記念P 学生自己負担		300,000	卒業・修了記念P 学生自己負担		0
雑収入	預金利息	1,200	雑収入	預金利息	354
合計		19,750,666	合計		18,609,020

2. 支出の部

予算			決算	
共通企画		4,764,500	共通企画	582,121
			講演会	0
			学会誌	522,436
			卒業パーティーチケット代返金	12,825
			その他(藍星賞盾)	46,860
大学院生企画		350,000	大学院生企画	16,000
			学会参加費補助	16,000
			その他	0
学生企画		1,400,000	学生企画	267,906
			学習・交流企画	215,822
			学会参加費補助	52,084
			その他	0
10周年記念事業		1,000,000	10周年記念事業	5,084,500
			10周年記念事業	5,084,500
その他		1,100,000	その他	995,999
		1,000,000	学会業務に関わる人件費	995,999
		100,000	通信費、予備費など	0
次年度繰越金		979,500	次年度繰越金	11,662,494
合計		9,594,000	合計	18,609,020

3. 定期預金(10周年記念事業積立金)

積立年度	金額	口数	保有金額
2014	2,075,000	1	17,575,000
2015	1,500,000	1	
2016	3,000,000	1	
2017	5,000,000	1	
2018	3,000,000	1	
2019	3,000,000	1	

立命館大学スポーツ健康科学会 決算監査報告書

記

2021 年度決算報告書について、帳簿、預金通帳、証憑等を照合した結果、適正に執行・管理されていることを認めます。

2022 年 5 月 13 日

監査委員 スポーツ健康科学部

教授

真田 樹義 

大学院スポーツ健康科学研究科

博士課程前期課程 2 回生

日隈 さつき 

スポーツ健康科学部

4 回生

大野 雅嗣 

以 上

第 3 号議案

2022.6.22

立命館大学スポーツ健康科学会総会

2022 年度事業計画について（案）

- (1) これまでと同様に、スポーツ健康科学部の取り組みである 3 回生以降の「ゼミ選択」に向けた取り組みに協力していきます。また、学会の知を高めて行くために、講演会企画、大学院生や学部生の学外学会参加を支援する取り組み、G A T プログラムへ参加する為の英語能力向上のため、TOEFL 関連講座の受講料・受験料を補助します。
- (2) 学会誌「立命館スポーツ健康科学」、また卒業論文集の発行を行います。
- (3) 第 5 回藍星賞表彰制度について、2022 年 2 月に募集し 4 件の応募がありました。選考の結果 4 名の受賞者が決定し 2022 年度本総会にて受賞者を発表、受賞記念の盾を贈呈しました。また第 6 回藍星賞の募集を 2023 年 1 月に行います。
- (4) 博士課程前期課程 12 期生の修了、同後期課程 9 期生の修了、そして学部 10 期生の卒業に向けて「卒業・修了記念パーティー」を企画します。

これからも引き続き、学会員の皆様（学生、大学院生、教員）の要望を踏まえた学会活動を展開していきたいと考えております。建設的なご意見やアイデアなどにつきましては、もよりの常任委員、もしくは事務局であるスポーツ健康科学部事務室までお寄せ下さい。

以 上

第3号議案

2022年度予算(案)(2022.04.01～2023.03.31)

1. 収入の部

予算			事業計画、積算根拠
会費収入	教員会員	432,000	12,000円×36名＝432,000円
	大学院生会員	912,000	8,000円×(M65名＋D49名)＝912,000円
	学部生会員	8,112,000	8,000円×1014名＝8,112,000円
卒業・修了パーティー学生自己負担		300,000	0
預金利息		400	
合計		9,756,400	

2. 支出の部

予算		事業計画、積算根拠
共通企画	2,180,000	講演会、セミナー企画 500,000円 学会誌発行(13巻) 530,000円 卒業記念・修了記念パーティー 1,000,000円 その他(藍星賞盾含む) 150,000円
大学院生企画	250,000	学会・インターンシップ 参加費補助 100,000円 講演会、セミナー企画 100,000円 その他 50,000円
学生企画	1,030,000	学会・インターンシップ 参加費補助 100,000円 GAT Step-Up Program 補助 100,000円 学習・交流企画 500,000円 卒業論文優秀者の表彰 230,000円 その他 100,000円
積立金	0	定期預金へ
その他	1,000,000	学会業務に関わる人件費 1,000,000円
	100,000	通信費など
次年度繰越金	5,196,400	
合計	9,756,400	

第 4 号議案

スポーツ健康科学会『藍星賞』表彰について

藍星賞表彰制度により、第5回受賞者を下記のとおり決定し、表彰式を執り行うこととする。

藍星賞とは、人材育成、研究成果発信の好循環をより促進することを願い、本学会として「スポーツ健康科学」分野において、教育ならびに研究において顕著な業績・功績をあげた若手を中心とした教職員・学生を顕彰する表彰制度である。

記

【2021 年度藍星賞受賞者】

	受賞者
1. 研究部門	森嶋 琢真
2. 教育部門	木下 裕介
3. 国際部門	廣松 千愛
4. 社会連携部門	杉山 敬

1) 森嶋 琢真氏

森嶋琢真氏は、本学スポーツ健康科学研究科博士課程前期課程・後期課程の一期生であり、後藤一成教授の指導の下、精力的な研究成果をまとめた博士論文「健康増進をねらいとした低酸素環境での運動の効果に関する研究」を提出し、本研究科における最初の博士の学位を授与された人物である。さらに、本研究科博士課程後期課程在学中に本研究科において、最初に日本学術振興会特別研究員へ採用された人物でもある。したがって、今日の本学部・本研究科の国際的かつ飛躍的な発展の礎を築いた人物である。森嶋氏は、学位取得後、米国の University of Missouri に留学し、そこで新たに血管機能に着眼した研究を開始した。具体的には、デスクワークや海外旅行のような長時間の座位によって生じる脚部の血管内皮機能の低下を抑える効果的な運動トレーニングあるいはサプリメント摂取の効果を検証した研究成果を多くの国際学術誌に発表している。さらに、留学後は、筑波大学、法政大学、そして、本年度着任された中京大学において、運動と血管機能の関係、とりわけレジスタンス運動によって生じる血管内皮機能の低下を抑える効果的な運動方策の探索やその機序解明を目指した研究成果を多くの国際学術誌に発表している。したがって、今後も本邦のみならず世界のスポーツ健康科学研究をリードする先駆的かつ精力的な研究成果の発信が期待できる人物である。

森嶋氏には、本年度開催された立命館大学スポーツ健康科学部・研究科 10 周年記念式典において、「2050 年におけるスポーツ健康科学」をテーマとしたパネルディスカッションに本研究科の修了生を代表し、ご登壇頂いた。また、本学部における運動生理学の講義においてもこれまでの精力的な研究成果を運動生理学の観点に立脚し、ご講演を頂いた。したがって、本研究科を修了した現在においても本学部・本研究科の発展ならびに学生の学びに貢献して頂いている。

以上の精力的な研究実績ならびに本学スポーツ健康科学部・研究科への尽力を鑑み、森嶋氏は、藍星賞（研究部門）を受賞するに相応しい人物である。

2) 木下 裕介氏

木下裕介氏（立命館宇治中学校・高等学校 教諭）は、2018年に立命館宇治高校アメリカンフットボール部監督に着任されて以降、公式戦戦績 32 戦 27 勝、うち 2 度の日本一（2019 年度、2021 年度）を達成されるなど、輝かしい実績を残されている。2019 年度の日本一については、立命館宇治高校アメリカンフットボール部創部初であり、今なお、学園の新たな歴史の一部を創造されている。

その指導の特徴は、まさに「人間教育」。部員（選手・マネージャー）に対する指導、教育はもちろんのこと、ともにチームを組織するコーチに対しても 1 人 1 人と丁寧かつ真剣に向き合い、対話し、これを積み重ねることでチームに携わる全ての人間力を総合的に向上されてきた。結果として、立命館宇治高校アメリカンフットボール部は、あらゆるステークホルダーから支援され応援されるチームに成長を遂げている。加えて、チーム力・組織力の向上に比例して、先述のとおり大きな成果を上げられた。

「人間教育」を軸としたチーム力強化の手腕は、指導を受けた選手、チーム関係者、他の指導者・教育者など、チーム内外問わず多くの評価を得ており、スポーツをとおした「教育」の 1 つのロールモデルを示されたと言っても過言ではない。

このように、教育者として、アメリカンフットボールをとおして大きな功績を残されている木下裕介先生は、藍星賞受賞にふさわしい人物である。

3) 廣松 千愛氏

スポーツ健康科学部卒業生（2 期生）である、廣松千愛さんは、本学部卒業後、管理栄養士を目指し、養成課程のある公立大学に編入し、卒業と同時に管理栄養士の資格を取得した。

この間に、自らの積極性と語学力を活かし、カナダ（モントリオール）にてカナダナショナルチームやシルク・ドゥ・ソレイユ、また、イタリア（ミラノ）にてセリエ A ユースチームの食事・栄養管理などを現地に学び、国内外のネットワークを構築。管理栄養士資格取得後は、フリーランスとして、サッカーやバスケットボール等、様々なプロ選手に栄養管理のサポートや食事提供を行う他、J クラブやプロ野球のアカデミーにて、育成年代の選手への食育も行っている。

昨夏開催された、第 32 回オリンピック・パラリンピック競技大会(2020/東京)においては、陸上の寺田明日香選手、トライアスロン・パラトライアスロンナショナルチームに対し、複数回にわたり合宿帯同を含む栄養サポートを実施。日本選手の国際競技力向上に貢献した。

また、昨年末には、IOC Diploma in Sports Nutrition を取得。国内外における今後の活躍が大きく期待される。

以上、スポーツ健康科学部卒業生の新しい活躍の可能性を示す存在でもある、廣松千愛さんは『藍星賞』受賞にふさわしい人物である。

廣松さんの活動の詳細については以下を参照下さい。

<https://colory.jp.net>

4) 杉山 敬氏

杉山 敬氏（特任助教）を藍星賞 社会連携部門の表彰対象者として推薦します。

その理由は、以下の通りである。

①スポーツ庁の助成事業「女性アスリート支援プログラム」

「女性ジュニア・アスリートのパフォーマンス向上とスポーツ傷害予防トレーニングの創発プラットフォームの構築—ネットワークを活用した最先端の「知」の共有と次世代型指導者の育成システム—」の企画・運営リーダーとして、この事業の推進にあたり、京都府中体連・高体連、滋賀県中体連・高体連との連携を促進し、中学、高等学校の先生方に本プロジェクトを広めて協力関係を構築し、多くの生徒に「スポーツ傷害予防」のプログラム提供を行った。もちろん、大きなプロジェクトであり、参加メンバーも多数いるが、その中心的な役割を果たしたことは、メンバー一同、意見の一致するところである。

<http://www.ic.fc.ritsumeit.ac.jp/athlete/member.html>

②上記のプロジェクトで構築したネットワークから、中学、高等学校でのワークショップ、相談についても適宜行い、「スポーツ健康科学」を生徒のみなさんへ広めた功績は大きい。

③スポーツ傷害予防のオンライン・シンポジウム、ワークショップについての運営・企画についても大きな貢献を行い、本学部の研究力を社会に発信し、連携を深めた功績は大きい。

以上